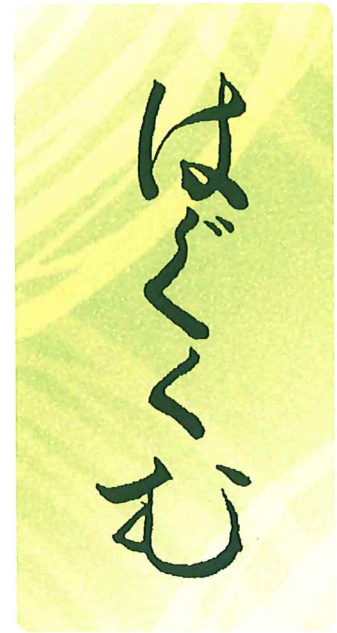




東京小児療育病院 中庭のしだれ桜



No.44 (令和4年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院
西多摩療育支援センター
後援会

連絡先

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521 (代表)
東京小児療育病院
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のため誠実に
積極的に取り組み障害児者と
その家族を支援します

経営基盤の強化と 法人運営の継続

社会福祉法人鶴風会
法人事務局長 佐藤 朋己

新年度を迎えまして、皆様ご健勝のことと存じます。

皆様には、日頃より社会福祉法人鶴風会の事業運営につきまして、温かいお力添えを賜り、心からお礼申し上げます。

私は、平成3年に入職し、令和2年4月1日付で、法人事務局長を拝命いたしました。誠心誠意努めてまいります。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2・3年度と「オルフェの会」等の年中行事が開催できず、皆様にお目にかかれなれないことを残念に思っております。また、開催できなかったにもかかわらず、変わらなく御寄附を賜り誠にありがとうございます

- 1頁 経営基盤の強化と法人運営の継続
- 2頁 重症心身障害児者の輝きに導かれて
- 3頁 19年間を振り返って
- 4頁 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団
助成金報告
- 5頁 公益財団法人JK A自転車等機械
振興補助事業の助成報告
- 6頁 東京小児療育病院 行事報告
- 7頁 西多摩療育支援センター 行事報告
- 8頁 花つみボランティア
寄附者名簿
寄贈者名簿

した。

令和4年度から、複数の社会福祉法人が共同で物資を購入したり、採用や人材育成を行ったりする「社会福祉連携推進法人制度」が施行されるなど、社会福祉法人は経営基盤や対応力の強化が求められています。

そうした状況下で、社会福祉法人経営における最大の課題は、今後の労働力人口減少社会で、優れた人材をどう確保し、その人材をどう育成していくかであると言われています。社会福祉事業を行う鶴風会は、人材の確保・育成・定着が、経営基盤の「要」であることから、これまで「魅力ある職場づくり」、「働きやすい職場づくり」に取り組んでまいりました。

そのひとつとして、鶴風会が運営する東京小児療育病院の院内保育室があります。院内保育室は、職員が仕事と子育てを両立できるようにと、故五島瑳智子理事長が大規模改修を行い、24時間保育を導入して

ります。通常、出産を経た職員が、病棟勤務に復帰することはとても難しいものです。しかし、24時間保育を導入したことで、いつでも子どもを安心して預けることが出来るようになり、産休に入る職員の職場復帰を後押ししています。また、就学前の子どもを預けられるからか、第二子、第三子が生まれても勤務を続けることができる職員が多い印象です。

令和3年度には、看護宿舍内にあつた院内保育室が、老朽化した宿舍の解体に伴い、リハビリ棟2階にリニューアルオープンし、明るく広い院内保育室になりました。また、新たに4名の常勤保育士を採用し、あたたかい愛情と丁寧な見守りの中で、子どもたちは安心して生活を送れています。子育てをしながら働き続けてもらうために設置する保育施設から、一歩進んで、保育の中身も充実させ、職員が「子どもにこの施設で過ごしてほしい」と思える施設になりました。

今後、さらなる拡充として、鶴風会評議員にご就任いただいております小川昭子先生が運営されている病児保育

室「狛江すこやか病児保育室」をお手本に、病児保育の実施に取り組んでまいりたいと思っております。

鶴風会の運営につきましては、様々な課題がございます。しかし、これまで先生方が築き、守り続けてきた理念を正しく継承するとともに、現況に則した新たな活動方法も取り入れ、経営基盤の強化を図り、法人運営を継続してまいりたいと考えております。皆様には、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「狛江すこやか病児保育室」の紹介

小川昭子先生（昭和25年卒）と、姉の野澤良美先生（昭和20年卒）の二人で、平成3年7月に開設。「医療以外になにか地域のお役に立つことはないか、働くお母さんのためにちょっと子どもを預かってあげられたら…」との思いから、ボランティア活動として野澤医院の2階を増築しスタート。関東地区初の病児保育施設で、その後、市議会の目にとまり市の委託事業となる。小川昭子先生は、公益財団法人聴覚

障害者教育福祉協会の評議員としても活躍されております。

『重症心身障害児者の輝きに導かれて』

―鈴木康之先生の教えを―

忘れないで―

社会福祉法人鶴風会後援会

会長 青木 継稔

社会福祉法人・全国重症心身障害児

(者)を守る会の会誌「両親の集い」

第747号3・4、2021（編集責

任者・北浦雅子）の巻頭言に、医師・

鈴木康之先生の『重症心身障害児・者

の輝きに導かれて』が掲載されていま

した。

鈴木康之先生は、当社会福祉法人鶴

風会、東京小児療育病院・西多摩療育

支援センターにて約半世紀近く重症心

身障害児・者（重症児者）に生涯を捧

げられ、また、本邦における重症児医

療分野で活躍する多くの医師を育成さ

れています。当東京小児療育病院が重

症児医療のメッカとして先生を慕う医

師が全国から集まって来ました。鈴木

康之先生のご功績は忘れられることは

ないと思えますし、高く評価されるべきと存じます。

鈴木康之先生は、「私にとって重症心身障害児・者との出会いは、人生を教えてくれた天恵でした」と語られています。医学生の時、『医療の世界に進むなら』と案内された重症心身障害児者施設『みさかえの園』（長崎）で重症児者にたどたどしく食事介助のお手伝いをしたのが原点のことです。

小児科医、小児神経科医となり、障害児者医療施設に赴任し障害児者達と正面から向き合い、お母様達から色々教えて頂く中で心に響いたのは、「この子も普通の子のように」という言葉だったそうです。重症児は以前は就学猶予とされ、教育も受けられずに奥座敷・納戸や天井裏などで育てられていました。『重症児は不治永患』とされ医療さえも受けられずに、ともに取扱われず区別された時代が続きました。重症児であっても、その子ども達の清く澄んだ瞳、呼びかけに応じる素晴らしい笑顔、懸命に生きる姿に感動するのです。誰にも罪のない、ひとりひとりが同じ、いのち、なのです。不

平等であり得ません。先生は、海水浴、キャンプ、生活を共にする体験などから、障害児もひとりの子どもとして当り前の生活をし、当り前の医療・ケアが受けられ、発育・発達支援が受けられ、教育の場の提供があることの重要性を多くの出会いの中から教えられたと述べられています。すべての、いのち、は輝いています。触れ合い支え合うことで人はより輝き、幸せが生まれます。人が人間になるその大切さをつまでも重症児者は教えてくれます。

障害福祉の父と言われる糸賀一雄先生は「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」と唱えた言葉と思想は余りにも有名です。同じ光を鈴木先生は感じられたのではないかと、長崎みさかえの園総合発達医療センターむつみの家施設長の福田雅文先生は述べておられます。鈴木先生は2005年に「糸賀一雄賞」を受賞されています。

鈴木康之先生と私は、時期は違いますが小児神経学等の分野でご高名であり、平成30年まで全国重症心身障害児者を守る会の理事長として重症児者と

そのご家族を支え続けられる有馬正高先生（東邦大学医学部小児科・鳥取大学脳神経小児神経学教授、国立精神神経センター名誉院長、東大和療育センター・東部療育センター設立者等）の弟子であることが共通しています。当

法人元理事長の倉島摂子先生は、有馬先生から当時大分大学医学部小児科講師であった鈴木康之先生を当時教授であった小川教授に三顧の礼を以って当法人の診療責任者として貰い受けに行ってきたさいと言われたことを、倉島先生は私によく話してくれていました。東京小児療育病院は、鈴木康之先生により大きな飛躍と発展を遂げました。福田雅文先生は、東京小児療育病院では「この子らを支えて共に生き」、「この子らの輝きを守り」、「この子らが教えてくれる豊かな社会のあり方を示すこと」を施設の指針のもとに鈴木先生と出会い、重症児者とそのご家族に寄り添うことの大切さを学ぶことができ感謝したいと述べていらつしやいます。このように全国で多くの鈴木門下生が活躍されて誇らしい気持ちで一杯です。

19年間を振り返って

医師 松田 光展

「4〜5年勉強したら戻ってきた」と言い残して九州を離れたのが2003年5月のことです。障害児者医療を志し、一度基礎を学んでおきたいと思ったのがきっかけでした。あれから19年。故郷に一人残した母の体調不良もあり、この度長くお世話になった東京小児療育病院を離れることになりました。

19年という歳月は、障害児者医療を大きく様変わりさせました。発達障害の台頭、重症児者の加齢に伴う重症化や合併症の問題等です。外来はそのほとんどを発達障害児が占め、重症児者に対する非侵襲的人工呼吸管理や排痰補助装置の使用は今や当たり前、時には糖尿病や癌への対応も求められます。大いに戸惑いながらも、病院の理念を大切にしながら、歩みを進める日々でした。

一方で、いつまでも「何でも屋」で

良いのか、これは他医療機関が障害児者に対し消極的であることも大きく関係していますが、療育医に課せられた今後の課題とも言えるでしょう。

一人の患者の人生に長く関わらせていただいたことは、かけがえのない財産となりました。1歳だった子どもが20歳になる。これこそ小児科の醍醐味ですし、積み重ねてきた月日が互いの共感や感謝、信頼を生み、別れのつらさにつながったと思います。また、スタッフとの絆も深まりました。志を同じくする者の存在がこんなにも心地良く、心強く、有難いものか、痛感しました。

私は「わ」という言葉を座右の銘にしています。「和」や「輪」とも表現できますが、それを形にできたのではないかと感じているところです。

満開の桜と多くの「わ」が私の新たな旅立ちを祝福してくれました。感謝の念を力に変えて、九州でも障害児者の医療に邁進してまいります。

お世話になった多くの皆様方、本当に有難うございました。





タブレットで学習している様子

東京都教育委員会は、学校教育におけるICT教育の導入を進めており、当院入所児童の方々は、パソコンを使用して授業を受けています。
病棟内のベッドサイドでパソコンを使用して学習するためには、病棟内のWiFi環境の整備が不可欠でした。
また、コロナ過において、入所者様とご家族様の直接の面会を中止せざるを得ない状況になっており、オンライン面会の整備も課題となっていました。

公益財団法人
中央競馬馬主社会福祉財団から
助成金をいただきました
社会福祉法人鶴風会
法人事務局長 乙幡 和明

この度、公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団からの助成をいただき、病棟内にWiFi環境の整備することが出来ました。



オンライン面会の様子

公益財団法人中央競馬馬主福祉財団に感謝を申し上げますとともに、今後のご活躍とご発展をお祈り致します。

「中央競馬馬主社会福祉財団」の紹介

中央競馬の馬主の間で、自分たちの手で、かつ目に見える形で社会福祉に貢献したいという機運があり、これに併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として、競馬賞金の一部を自主的に拠出することにより、昭和44年10月に財団法人中央競馬社会福祉財団（現公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団）が設立されました。
全国の民間社会福祉施設等に助成金を交付しており、その累計額は、令

和3年度までに29,009件、1,218億円余に達しています。

長年にわたり我が国の社会福祉事業の発展充実に貢献している財団です。



公益財団法人
JKA自転車等機械
振興補助事業の助成報告

西多摩療育支援センター
事務長 石井 昌之

公益財団JKA2021年度自転車等機械振興補助事業を受けて、西多摩療育支援センターの通所施設「上代継在宅地域支援センター」の特殊浴槽一式を更新することができました。

通所のご利用者様は、ご自身で入浴することが困難なため、浴槽が上下し、寝たままの姿勢で入浴が可能な特殊浴槽を整備しました。

また、在宅での生活では、ご自身の成長や浴室の環境、ご家族の状況により、入浴の機会が減少する方がいらっしゃることから、西多摩地域在住の重症心身障害児・者の方々へ入浴設備を貸し出し在宅入浴支援も行っております。

この度、開設以来17年が経過した特殊浴槽を更新することが出来ましたことを心より感謝申し上げます。今後の公益財団法人JKAのご活躍とご発展をお祈り申し上げます。



通所施設 特殊浴槽

「公益財団法人 JKA」の

活動について

公益財団法人 JKA
補助事業部 補助事業課 小林智枝様
公益財団法人JKAは、自転車競技法に基づく競輪振興法人、小型自動車競走法に基づくオートレース振興法人として、競輪・オートレースの収益を広く社会に還元し、競輪・オートレースの持続的発展を通じ、社会貢献を果

たすため、地方自治体が施行する競輪・オートレースの売上げの一部により、機械振興と公益事業振興に対する補助を行っています。

現在、機械・公益事業のそれぞれの分野において、補助事業の成果・効果、社会的な要請や社会環境の変化等を踏まえ、「叶えよう。小さなチャレンジから」をキーワードに、さまざまな社会的課題を解決するための取組みを積極的に支援しています。

特殊浴槽（エレベートバス）整備事業を行うことにより、新型コロナウイルス感染症拡大防止や利用者の皆さんが安全・安心な生活を送るため、福祉法人鶴風会 西多摩療育支援センターさんを支援させていただきました。



2021年度 東京小児療育病院 行事報告

看護・生活支援部
生活支援担当科長 渡辺 明彦

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、昨年度に引き続き

感染対策を講じながら、行事内容や方法を考え、制限がかかる状況下でも利用者の皆様が、楽しく参加できるような企画を実施してきました。

病棟単位で行っている行事については、病棟内で密にならないように工夫をしています。以前であれば、病棟利用者全員がプレイルームに一同に会し、それぞれの行事に参加し楽しんでいました。しかし、昨年度からは「できないこと」が多くなり、いろいろな模索しながら行事を企画し実施してきました。それを踏まえ今年度は、制限ある条件の下で「いかに楽しむことができるか」と工夫しながら、「夏祭り」「秋祭り」「クリスマス会」「新年を祝う会」などを実施してきました。集まることのできないことから、職員が居室に出向き、居室単位の少人数で行うことで、利用者との関わりがより深まり個人と向き合つことができる時間となりました。同じように各居室を回りながら、それまでとは違う感覚を味わうことができたようでした。また、廊下をステージ代わりにし居室ごとに廊下に出ることで、他の居室者と接することなく催し物に参加することができた

など、どの行事においても、病棟ごとに趣向を凝らし工夫しながら実施することで、利用者の皆様の笑顔が絶えず、楽しみながら参加されている姿が印象的でした。

しかし、院全体で行うような規模の大きい行事である「みどり祭り」や「チャリティーバザー」、4病棟合同で行う「花火大会」は、残念ながら開催することができませんでした。大きな行事は地域の皆様も楽しみにしていますし、何よりもご家族の方が、この「行事」を利用者とともに楽しんでいらっしゃると思います。面会が制限されている間は一緒に参加することもできませんでした。今年度こそは、開催できることを願うばかりです。

外出行事についてもバスハイクや近隣公園への散策、レクリエーションに内容を変更して実施しました。バスハイクも1台のバスに乗車する人数を制限し、車内で密にならないようにしました。1回に乗れる人数が少ないため午前後に分散し、実施するなどの工夫もなされていました。

コロナ禍も2年を迎え、それまで当たり前にできていたことができなくな

り、それでも「できない」ではなく、「どうすればできるか」を考えることで、また別の方法や楽しみに気づくことができたように思います。行事以外では日中活動でも同じように、使用した道具類の消毒はもちろんのこと、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など、発令している期間は他病棟の方々（職員・利用者）との直接的接触を控えるなど、基本的な感染対策のほかに少し内容や方法を変えることで、万一感染者が発生しても最小限で収めることができます。

私たちは利用者が安全安心な生活、楽しく快適な生活が営めるように今後も支援していきます。

西多摩・日の出 Webまつり(センター祭)

西多摩支援センター
生活支援部長 柳瀬 達夫

西多摩療育支援センターの令和3年度の行事についても、新型コロナウイルス感染症への予防措置による影響はとて大きいものになっています。例年6月に開かれていたセンター全体の

お祭りである「センター祭」も2回連続で中止になってしまいました。そこで、地域の中での結び付きも大切にしつつなにかできることはないかとスタッフ一同検討し、Webによる配信型のお祭りを企画することになったのです。地域の同規模の施設である「社会福祉法人同愛会 日の出福祉園」にもお声をかけて、共同で開催していただけることになりました。

はじめてのことで、企画内容に迷っておりましたところ、「特定非営利活動法人 キッズアートプロジェクト」(渡邊 嘉行先生 総合川崎臨港病院理事長)から、とても楽しそうな企画内容を提案していただきました。ひとつは、クレイアート(粘土細工)による写真立てづくり、もう一つはフィーリングジャズコンサートでありました。さらに、地域の福祉施設がこの状況でも頑張っている姿を施設紹介として配信することとして企画し、お祭りとしての内容もそろいました。

「西多摩・日の出Webまつり」の開催日は2021年11月23日(勤労感謝の日)となり、はじめて試みの中、西多摩療育支援センターと日の出福祉

園をホストとして、その他5つの施設へ同時配信する企画となりました。まず、鶴岡広センター長の開会宣言からスタートして、午前中はクレイアートです。講師に五十嵐晴子先生を迎え、握るだけでも個性のある形になる粘土にカラフルな色付けをして、それぞれの会場で思い思いの写真立てを作ることでできました。それに続き、地域の施設から事前に集めた施設紹介を配信して、それぞれの事業所での取り組みの様子をお互いに確認しました。なかなか対面で交流することができない中、なつかしさとながりを感ずることが

できる内容でした。午後はピアノストの桃瀬茉莉様によるフィーリングジャズコンサートです。音楽のライブ配信というところで、どうなることかと思いましたが、桃瀬様もこつした配信にも慣れていく様子で、リラックスした雰囲気それぞれ会場に伝わるコンサートになったと思います。

今回、特定非営利活動法人キッズアートプロジェクトの理事長である渡邊嘉行先生には、当日のイベント紹介などもしていただき、たいへんお世話になりました。心から感謝しております。

また、共同開催を引き受けていただいた「日の出福祉園」や地域の施設とは今後も何らかの形でこつした企画を続けていければと考えております。本当にありがとうございました。



花つみボランティア

西多摩療育支援センター
事務長 石井 昌之

令和3年12月8日、hananeさ

ん(お花屋さん)とボランティアの看護師さんによるイベント「花つみ」が、西多摩療育支援センターの玄関で行われました。

バラやガーベラ、カーネーションなど10種類、およそ180本の花が用意され通院している子どもたちにひとり3本ずつプレゼントされました。子どもたちはじつくりと花を眺めてお気に入りの花を選んでいました。

都内のお花屋さん、花の茎の長さや太さがまばらだといった理由で市場に出回ることの少ない花を各地の医療機関で花つみボランティア活動を行っております。

～NHK首都圏ナビニュースで放送されました～
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211208/K10013380621000.html>



花を選んでいる様子

社会福祉法人鶴風会へ

寄附者ご芳名

令和3年7月～令和4年2月
499名(五十音順・敬称略)

阿部 俊彰・阿部 正和・阿部美代子
安斎 忠治・安達 久夫・安部 良治
厚地 良彦・荒井 陽子・荒木眞佐子
秋山 朋代・青山 幸生・青木りつ子
青木 悦・青木 継稔・青木 徹
青木 美澄・青木万智子・赤星 恵子
赤沢 麻美・浅岡 秀行・浅子 薫衣
浅川 恭行・浅川 和子・浅田 栄
浅田 栄一・浅島 裕雄・足高 毅
足立 嘉子・朝川 孝幸・朝日恵美子
有村 章・伊藤 治男・伊藤 圭子
伊藤 正俊・伊藤 文子・伊藤 茂理
伊豆蔵英明・井上 英治・井上 昌光
井上 美俊・井上 和子・井村 和博
一林 繁・逸見 仁道・稲垣 登稔
稲葉 允・稲葉 良子・岩村 吉晃
岩本 明・五日市 敬・今井 晃
石見 亜矢・石見 徹夫・石原 学
石川 至・石塚 博子・石田 秀子
石田 里子・池田 基昭・板倉 恵子
飯国紀一郎・飯国 弥生・飯国洋一郎
飯村 誠・飯塚 健雄・飯塚 卓
飯田美保子・渭原 博・岩瀬 七重

宇佐見三代・宇野久仁子・宇野 拓
宇野 明彦・瓜田 純久・歌野原祐子
漆畑 修・上田 建・植田 桂子
畝本 恭子・梅田 嘉子・梅田 正法
海老原健介・海老根伊佐子・江元 智子
江川 惠基・枝松 秀雄・奥住 一雄
奥田 恭子・岡田 研吉・岡田 倫明
岡本 康介・冲野 佳子・荻野 瑠美
小原 該一・小原 桂子・小原 明
小川 昭子・小川 正俊・小畑 恵子
大館 一彦・大江 容子・大高 究
大塚 幸延・大村 一夫・大塚 周二
大塚 淳子・大塚 博生・大島 剛
大島 範子・大島 眞理・加藤奈津子
金森 勝士・神谷 節子・影山 美子
加藤 秀徳・加藤 貞人・加藤 茂
加藤 葉子・加藤 陸美・河合 典子
河上 修・河上 双葉・河村 康明
河村 伸子・河村 裕子・梶山 祥子
鎌田 直子・関東 繁・金子 康子
金子 明寛・金親 正敏・鹿島田忠史
狩野 修・春日井正典・勝見 千明
勝瀬 明子・上岡 謙夫・神田 悠美
川島 福恵・柏崎 操・菊池 宏章
菊池 信彦・菊池 洋子・鬼頭 秀明
北原 信三・木下 俊彦・木村 丹
木村 裕・木村 鈴代・久保 初美
久保田伸枝・久保木理恵子・桑原 千草

黒瀬 嘉幸・黒木 貴夫・倉根 理一
月花 亮・是枝誠太郎・河野 喜一
許斐 貞子・近藤 栄作・神山 悠子
幸田 文一・小西 正子・小西 冬海
小泉 蓉子・小竹原安見・小竹原良雄
小峰八ツヨ・小林純二郎・小林 静江
小林 寅喆・小林 令明・小林 和司
後藤加寿美・後藤 薫・境 敏秀
佐々木徹郎・佐々木道子・佐々木裕美
佐多 由紀・佐渡 昌子・佐藤 艶子
佐藤 重雄・佐藤 俊郎・佐藤 信一
佐藤 信秀・佐藤 宣・佐藤 洋子
佐藤 和子・斎藤 長則・坂本眞理子
笹本 修一・笹本 牧子・鮫島 寛次
鮫島 桃子・酒井 謙・酒井 珠子
西條 公勝・斉藤 民恵・先山 隆司
澤井 寛人・齋藤 洋子・塩野 久子
塩野 則次・四宮 雅子・志越 和子
志鳥眞理子・獅山富美子・篠 繁市
柴 孝也・柴田仁太郎・首藤さち子
新後閑周二・新谷 義克・正田 嘉子
正田 穂積・清水 光政・島津和貴男
島田 敏雄・島野 光・白井 久己
白石 祐子・須貝 研司・須田百合子
杉森 賢司・杉本 寛子・杉林 勤
炭山 嘉伸・炭山 朋子・菅野 寿子
鈴木 秀明・鈴木 達夫・鈴木智恵子
鈴木 美帆・鈴木龍一郎・鈴木 玲子

千 哲三・芹澤 滋幹・清宮 祥子
袖山 昌子・高木 真一・舘田 一博
舘野 香織・舘野 昭彦・高橋 和俊
高月 誠・高松 研・多胡 博雄
谷口 利江・谷藤 龍正・竹中玖美子
竹内 基・竹内 忍・田村 清美
田村 和子・田中 朱美・田中 政信
田島 政晴・田畑 友美・田部 秀山
田辺恵津子・武居 正郎・武村 保栄
武田 毅・武田 朋子・高橋 正
高橋 清子・高橋 奈央・高橋比路美
高後 裕匡・高槻 義夫・高波眞佐治
高木 芳夫・高野 恭子・高良 毅
長 博雪・月本 伸子・月本 一郎
築山 巖・塚原 英基・津賀 節子
辻 明良・辻本公美子・堤 俊一郎
坪井久美子・鶴岡 祥子・土屋 英子
寺田 郁男・出口 久次・遠田 和夫
戸谷 夏子・所 常明・東條 賢一
苗村 みえ・永山 隆一・永澤 康滋
中園 宏紀・中園奈津子・中岡 義明
中川 秀紀・中泉 治雄・中泉 裕子
中村志津子・中村俊一郎・中村 豊
中村 友美・中谷 尚登・中島 末美
中本 英子・中野 紀子・中野 弘一
中野 敏江・中里恵美子・中里 良
中澤 一治・長山 徹・長船 宏隆
長田 囃雄・長畑 節子・長澤 貞継

並木 温・西井 華子・西宮 常代
 西出 幸子・西川 朋子・西村 千秋
 西田 隆寛・西牟田 守・額田 均
 根本 暁・野見山昭生・野口 隆敏
 野上和加博・野村 正征・野中 杏栄
 野中 博子・野田 文子・花岡嘉奈子
 橋詰 直孝・橋口 亮・橋口 玲子
 橋本 卓史・原田 孝・原田千鶴子
 原田裕美子・秦 工三・秦 雅貴
 秦 誠一郎・早原 千鶴・早川 浩市
 長谷川和寿・長谷部孝子・波多野道弘
 萩谷 淑子・林 佳子・林 京子
 林 鴻程・濱中知恵子・肥後 千尋
 土方 淳・樋口志津子・蛭田 啓之
 平山玖美子・平田 徹・平野敬八郎
 平野 盛久・古橋 文武・藤井 昭夫
 藤川万規子・藤田ひろ子・藤田 啓子
 福島富士子・細澤 幸代・細澤 裕子
 星 北斗・星出 陽子・星野 恭子
 星野 光雄・堀 順一・堀之内八千代
 本間 照子・松井 一雄・松原 美保
 松原 龍弘・松山 潤一・松山 穂豊
 松田 正子・松田 直行・松島 英乃
 松尾進一郎・松本 誓子・前野 悦子
 馬嶋 順子・牧野 紘美・眞瀬きよみ
 宮岸 玲子・宮代 英吉・宮島 良征
 宮澤明希子・宮澤 一恵・宮崎 元伸
 三浦 英子・三宅 三三登 和代

三木 延義・三輪東一郎・水吉 秀男
 水野久美子・水野 惇子・水落 笙子
 向山 秀樹・向山 徳子・村井 貞子
 村川 公一・村川世津子・村國 均
 守田 正三・守屋 栄・森 紘子
 森 克彦・森田 啓子・森木 光司
 望月 祐一・望月 陽子・本明 啓子
 安土 達夫・山下 育子・山口 美穂
 山村 憲・山田 輝代・山田耕一郎
 山田 智政・山本 温子・山澤 一郎
 山崎 純一・山崎 大治・山崎 篤子
 谷野 徹・柳 恵子・柳瀬 達夫
 湯浅 玲奈・湯澤 俊・吉川 芳登
 吉永 克己・横田 卓史・吉原 克則
 吉田 計夫・吉田 宏重・吉田 正己
 吉田 友英・吉野 邦夫・与田 仁志
 龍 倫之助・若江幸三良・渡辺 敦子
 渡邊 嘉行・渡邊 正志・和田 俊洋
 鷺澤 尚宏・鷺澤 祐子
 (株)インテリアクリーニング
 (有)石沢工業所
 ウイズ(株)
 医療法人社団 永生会 永生病院
 栄養教諭期成会
 (株)エクセル・サービス
 おもちゃ図書館ふうせん
 学校法人 桜蔭学園
 大島椿(株)学術部 鈴木敏江

(有)クリーンワーク
 (株)コイワイ
 (株)コンテス
 (株)幸和義肢研究所
 近藤・鈴木法律事務所
 (有)清水商店
 ショイウエルス桔梗
 立川酸素(株)
 医療法人社団 武美会 富士診療所
 (株)立川印刷所
 (株)東基
 (株)東新商会
 東京医療クリーン事業協同組合
 東邦大学薬学部鶴風会理事長加藤裕芳
 中村建設(株)
 八王子建物管理(株) 前田節子
 馬場クリニック
 (株)ファインフーズ
 富士リネンサプライ(株)
 医療法人社団 文輝会
 公益財団法人 星総合病院
 前沢医院
 (株)増田禎司商店
 (有)森永牛乳 小平販売所
 祐天寺松本クリニック 松本誓子
 ヨシコクリニック
 医療法人社団 嘉明会 横浜東邦病院
 (有)吉沢薬品
 東京小児みどり父母会

社会福祉法人鶴風会へ
 寄贈品ご芳名
 令和3年7月～令和4年2月
 6名(五十音順・敬称略)

マスク 武蔵村山市
 健康福祉部健康推進課

消毒液 東京都医師会(レキットベン
 キーザー・アジアシフイッ
 ク・リミネッド)

流動食 本多拓郎
 我妻博之

りんど 大鰐町農業青年会

玩具 コストコホールセール(株)
 入間倉庫店



コストコからの寄贈

